

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	14-139	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Lifestyle factors and small intestine adenocarcinoma risk: A systematic review and meta-analysis. 生活習慣と小腸腺がんの発症リスク：システマティックレビューとメタアナリシス		
執筆者		
Bennett CM, Coleman HG, Veal PG, Cantwell MM, Lau CC, Murray LJ.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol. 2015 Jun;39(3):265-73. doi: 10.1016/j.canep.2015.02.001.		
キーワード		PMID
小腸腺がん、メタアナリシス、生活習慣、飲酒、喫煙		25736860
要 旨		
目的： 小腸腺がんの発症率は低いながら増加傾向にあるが、生活習慣上の危険因子に関する情報は少ない。本研究は生活習慣と小腸腺がん発症リスクの関連を評価することを目的とした。		
方法： 書誌データベースである Ovid MEDLINE、EMBASE および Web of Science を用いて 2013 年 10 月以降の生活習慣と小腸腺がんの発症リスクに関する論文を検索した。得られた 9 論文のうち、飲酒に関連したものが 6 報、喫煙が 6 報、食事が 5 報、体重が 3 報、身体活動とホルモン使用が各 1 報、社会経済的地位が 3 報であった。飲酒、喫煙等および小腸腺がんリスクについては、ランダム効果モデルを用いて統合相対危険度と 95%信頼区間を求めた。		
結果： 飲酒に関して、摂取量が最も多い区分と最も少ない区分での小腸腺がん発症の相対危険度は 1.51(95%信頼区間 0.83-2.75, 5 研究の統合結果)であり、異質性の高い研究を除いた 4 研究による感度分析では、飲酒による有意なリスクの上昇を認めた(相対危険度 1.82、95%信頼区間 1.05-3.15)。喫煙に関して、最も喫煙量が多い区分と非喫煙の小腸腺がん発症の相対危険度は 1.24(95%信頼区間 0.71-2.17, 5 研究の統合結果)であった。また食事に関しては、食物繊維の摂取と標準的な体重は小腸腺がんの発症に対して抑制的である一方、赤身肉や加工された肉および糖分を多く含む飲料の摂取は発症リスクを高めることが示唆された。一方で、社会経済的地位と発症リスクの関係は明らかではなかった。		
結論： 飲酒と小腸腺がんの発症リスクの上昇との関連が示唆された。小腸腺がんは発症率の低い疾患であるため、飲酒、喫煙、食生活などの生活習慣との関連性について、症例対照研究や大規模コホート研究などのさらなる調査が求められる。		